

平成 24 年 3 月 4 日

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室長 赤熊 めいこ 様

社団法人日本作業療法士協会
会 長 中 村 春 基



第47回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃（社）日本作業療法士協会の活動につきまして、ご支援ご協力を賜り深く感謝いたしております。

さて、2月26日に実施されました第47回作業療法士国家試験問題につきまして、全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- （1）全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- （2）当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- （3）国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ及び出題形式（図や設問の説明）について、再度検討をしていただきたく下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい7つの問題（午前2問題、午後5問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記致しました。

謹 白

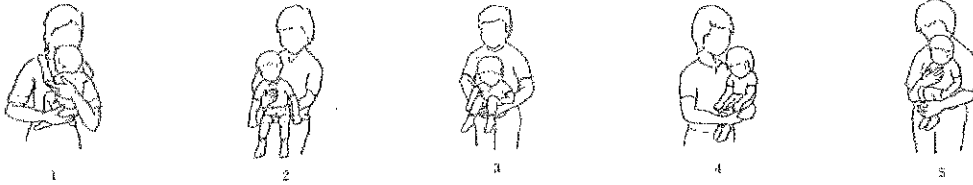
記

- I 複数の解が選択できると思われる6問題（午前13、65 午後10、17、53、87）、について、複数の選択肢を正解とすることが望ましいと考える。また、提示された選択肢からは解を選択する判断ができないと思われる1問題（午後42）、について、採点から除外することが望ましいと考える（別添資料参照）。
- II その他の意見
用語や設問の表現等が不適切であり選択肢の理解に戸惑う2問題（午前96、午後39）、消去法や優先順位等から解は選べるものの、他の選択肢も該当する可能性のある1問題（午後40）、消去法や優先順位等から解は選べるものの該当すると言いきれない2問題（午前32、95）があると考えます。

午前 問題

問題番号 (13)

13 体幹の筋緊張が低い脳性麻痺の乳児の抱き方で適切でないのはどれか。



解：1, 4 (複数の解が選択できる)

理由

2、3、5は適切である。

1. 「筋緊張の低い赤ちゃんを抱くときの誤った方法」¹⁾であるため、正解となる。
4. 「バランスの良好な幼児を運ぶときの一般的方法」¹⁾であるため、体幹の筋緊張が低い脳性麻痺の乳児の抱き方として適切でないため、正解となる。

したがって、複数の解が選択できる。

参考とする文献

- 1) Nancie R. Finnie 編著：脳性まひ児の家庭療育 原著第3版. 医歯薬出版, p240-241, p235, 2008.

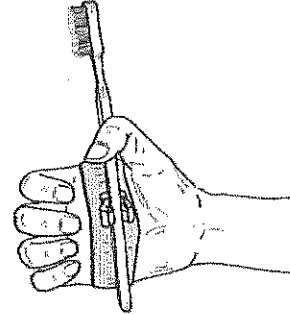
午前 問題	問題番号 (65)
<p>65 呼吸生理について誤っているのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 強い不安があると呼吸は促進される。2. O_2の運搬は酸化ヘモグロビンが行う。3. 嚥下反射が起こると呼吸が一時停止する。4. 血中CO_2分圧が増加すると呼吸が抑制される。5. 呼吸中枢は吸息中枢と呼息中枢とに分かれている。 <p>解：2, 4 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <ol style="list-style-type: none">1、3、5は正しい。2. 酸化ヘモグロビンは、「シアンなどの陰イオンと結合するがO_2、CO、NOなどとの結合能を失っているため、O_2運搬機能を有しない」¹⁻³⁾とあり、選択肢2は誤っており、正解となる。 酸素の運搬は、「酸化ヘモグロビン」ではなく「酸素化ヘモグロビン」が行う。4. 血中CO_2分圧が増加すると、アシドーシスとなり呼吸が促進される⁴⁾とあり、選択肢4は誤っており、正解となる。 <p>したがって、複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1) 医学大事典. 医学書院, p2401, 2003.2) 医学大事典. 南山堂, p2069-2070, 1998.3) 最新医学大事典. 医歯薬出版, p1803, 2005.4) 奈良勲 監修：標準理学療法学・作業療法学 生理学 第2版. 医学書院, p82, 2003.	

午後 問題

問題番号 (10)

- 10 頸髄損傷患者が自助具を装着した様子を図に示す。
この患者のZancolliの頸髄損傷分類はどれか。

1. C5A
2. C6A
3. C6B1
4. C6B3
5. C8A



解：2, 3, 4 (複数の解が選択できる)

理由

1、5は明らかに誤っている。

2、3、4の判断をするためには前腕の肢位や位置が明確である必要があるが、この図からは判断ができない。

参考文献^{1) 2)}では、整容の際に万能カフやカフ付把持機能を補完する自助具を併用するレベルはC6レベルとなっており、Zancolliの頸髄損傷分類による自助具の違いは明記されていない。自助具から判断することが困難であり、機能レベルで判断するには情報不足である。

したがって、複数の解が選択できる。

参考とする文献

- 1) 日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 作業療法技術学3 日常生活活動. 協同医書出版社, p198, p200, 2009.
- 2) 二瓶隆一 他編著：頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第2版. 協同医書出版社, p160, 2008.

午後 問題	問題番号 (17)
<p>次の文により16、17の問いに答えよ。</p> <p>21歳の女性。統合失調症。大学でグループ課題の実習中に錯乱状態となり入院した。入院後2週間からベットサイドでの作業療法が開始され、入院後7週で症状が落ち着いたため退院することになった。しかし、眠気やだるさ、疲労感があり、一方で復学への焦りが強い。</p> <p>17 この時期の作業療法士の対応で適切でないのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. デイケアでの集団活動を促す。2. 自宅での過ごし方を指導する。3. 復学準備の開始時期を話し合う。4. 作業遂行の特徴を家族に伝える。5. 外来作業療法で支援を継続する。 <p>解：1、3（複数の解が選択できる）</p>	
<p>理由</p> <p>2、4、5は適切である。</p> <p>問題文より症例は回復期前期に入ったばかりの時期、すなわち心身の基本的機能の回復が目標となる時期であると判断できる。作業療法では生活リズムの回復や自己ペースの理解を図る時期である。また、家族支援として家族の疾病理解を促す時期でもある。</p> <p>したがって、2、4、5は回復期前期への対応として正しい。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「デイケアでの集団活動を促す」について、デイケアでの支援はありうるが、「集団活動を促す」のは対人交流技能や社会性獲得が目標となる回復期後期が妥当で、本症例には時期尚早と考えられる。3. 「復学準備の開始時期を話し合う」について、復学準備は回復期後期の課題であり時期尚早といえる。復学への焦りがあることから話題として取り上げる可能性もあるが、話し合いが焦りを助長する恐れもあり適切とはいえない。 <p>したがって、複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1) 日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書改訂第3版 作業治療学2 精神障害. 協同医書出版, p113, p117, 2010.	

午後 問題	問題番号 (42)
<p>42 注意欠陥/多動性障害患者の作業遂行の特徴で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 作品の完成度が高い。2. 何度も説明を求める。3. 整理整頓が得意である。4. 時間を守ることに執着する。5. 興味があることに集中する。 <p>解：解なし</p>	
<p>理由</p> <p>1、3、4は誤っている¹⁾。</p> <p>2. 説明を良く聞いていないようにみえる¹⁾という記述はあるが、「何度も説明を求める」という記述はない。したがって正解とはいえない。</p> <p>5. 興味があることには、過剰に集中する²⁾という記述も見られるが、DSM-IVの診断基準では遊びや課題に集中できないと記述されている。したがって正解とはいえない。</p> <p>したがって、提示された選択肢からは解を選択する判断ができない。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1) 高橋三郎, 染矢俊幸, 大野裕 訳: DSM - IV - TR 精神疾患の診断・統計マニュアル, 2002.2) 山根寛: 精神障害と作業療法-治る・治すから生きるへ 第3版. 三輪書店, p268-271, 2010.	

午後 問題	問題番号 (53)
<p>53 尺骨と橈骨の両方に起始または停止するのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 肘筋2. 上腕筋3. 長母指屈筋4. 上腕三頭筋5. 長母指外転筋 <p>解：3, 5 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <p>1、2、4は明らかに誤っている。</p> <p>5. 長母指外転筋はすべての解剖学書で記されており、明らかに正解といえる。</p> <p>3. 長母指屈筋はすべての解剖学書ではないが、作業療法士養成校の教科書として使用頻度の高い文献²⁾にも記されており、正解といえる。</p> <p>したがって、複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1) 矢谷令子, 小川恵子 訳：図説 筋の機能解剖. 医学書院, p32, p43, 1993.2) 津山直一, 中村耕三 訳：新・徒手筋力検査法 第8版. 協同医書出版, p161, p170, p413-414, 2008.	

第 47 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成 24 年 2 月 26 日実施)

午後 問題	問題番号 (87)
<p>87 腰椎椎間板ヘルニアについて正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 女性に多く発症する。2. 好発年齢は50歳代である。3. 第4・5腰椎間で生じると前脛骨筋の筋力が低下する。4. 第5腰椎・第1仙椎間で生じると足背の感覚障害が起こる。5. 第3・4腰椎間で生じると大腿神経伸展テストが陽性となる。 <p>解：3, 4, 5 (複数の解が選択できる)</p>	
<p>理由</p> <ol style="list-style-type: none">1, 2は誤っている。3. 第4・5腰椎間で生じると前脛骨筋及び長母趾伸筋、長趾伸筋の運動障害（筋力低下）が起こるため、選択肢3は正しい。4. 第5腰椎・第1仙椎間で生じると足部外側（第4・5趾）の感覚障害が起こる。第4・5趾の足背に感覚障害が起こるため、選択肢4は正しい。5. 大腿神経伸展テストの陽性の場合には、第3・4椎間板ヘルニアを代表とする上位腰椎椎間ヘルニアが疑われるため、選択肢5は正しい。 <p>したがって、複数の解が選択できる。</p>	
<p>参考とする文献</p> <ol style="list-style-type: none">1) 国分正一 監修：標準整形外科学 第10版. 医学書院, p475-477, 2008.	